令和６年３月３１日

令和５年度 前年度の改善方策について実行した改善結果

（学校関係者評価委員会からの報告を受けて）

赤松学舎　世田谷区立松沢中学校
校　長　　山村　恵子

1　互いを尊重し、認め合う「心」をはぐくむ教育の推進

1　教育相談機能を充実させる。

▸ 「先生たちは相談しやすい」（生徒）肯定的評価→73％

・経年変化を追うと、R3→67％、R4→71％と、微増ではあるが、肯定的評価は着実に上がっている。
・昨年度から実施している１，２年生対象に生徒が話したい教員を選んで面談を行う「ハートフル面談」は、生徒の満足度は 98％と大変高く、教職員からも「生徒の意外な面を発見することができた」等の感想が寄せられた。ただ、評価委員の生徒ヒアリングで「普段から担任の先生と良い関係を構築したい」との意見が寄せられたということで、いつでもどこでも生徒が気軽に教員に相談できるような雰囲気を全校体制で醸成していくことが必要である。

▸ 「本校は、子どもや保護者が相談しやすい」（保護者）肯定的評価→71％＊昨年と変わらず

・本校の教育相談体制について、平素の傾聴姿勢の振り返りや、「子どもに向き合う時間」等の確保について再度見直しをはかる。子どもたちをはじめ保護者の皆さまにとって「頼りになる松沢中」をめざす。

2　道徳の授業や人権教育を通して、生徒自身が多様性や命の大切さを理解し、尊重する豊かな心を育む。

・いじめ防止、障害者や外国人に対する差別意識を解消する学習を多方面から積極的に進めた。
・「特別の教科　道徳」では学年ローテーションを実施し、いじめや人権問題など様々な題材を取り上げるとともに、他の生徒の考えを知り価値観を広げるために、授業の『振り返り』を大切にした。今後も、あらゆる角度から子どもたちの心を揺さぶり、「特別の教科　道徳」を継続的に進めていくことで心の教育を進めていく。

3　日々の学校生活や行事を通して、生徒の自尊感情や認め合う力、よりよい人間関係をつくりあげる力を育てる。

▸ 「学校生活が楽しい」（生徒）肯定的評価→88％　（前年比▲-1％）
▸ 「わたしは思いやりの心や認め合う心を持って友だちや他の人と接している」
→（生徒）肯定的評価…88％　（前年比▲-4％）

・肯定的評価は微減しているものの、依然多くの生徒たちがお互いを思いやり、前向きに学校生活を送っていると評価していることは、何よりも素晴らしいことである。その要因のひとつに、学校行事の充実があげられる。新型コロナウイルス感染症が５類に引き下げられ、運動会や今年度４年ぶりにコンクール形式を取り入れた松中祭（舞台の部）、各学年の行事を計画的に実施したことで、生徒の満足度はとても高かった。（「学校行事は楽しい」と答えた生徒肯定的評価→90％）
　行事に対する意識付けと取組み方を工夫し、行事を通して生徒が仲間との連帯感や自己有用感を感じられる取組みを展開していく。

２　確かな「社会力（これからの社会を生き抜く力）」をはぐくむ教育の推進

１　あいさつを大切にする。生徒の意欲を大切にした教育活動を計画的に進める。

▶「自分からあいさつをしている」（生徒）肯定的評価…84%　（前年比▲-7%）

・学年による差は小さくなったが、肯定的評価が大きく下がったことは残念である。あいさつの必要性を今一度生徒に考えさせると同時に、引き続き教職員自ら積極的に声かけをし、元気なあいさつが飛び交う学校を目指す。

▶「わたしは委員会や係活動などの授業外の活動に積極的に取り組んでいる」
→（生徒）肯定的評価…82%

▶「わたしは地域活動やボランティア活動に関心をもっている」→（生徒）肯定的評価…50%

・学校内での決まった仕事については積極的に取り組んでいるものの、地域やボランティア活動には前向きの様子が見られない。昨年度から１年生で「ボランティア講座」を行っているが、地域の一員として活動することの重要性をより理解させることが課題である。

▶「先生は生徒の意欲を大切にしている」→（生徒）肯定的評価…88%　（前年比▲-2%）

・これからも、生徒の意欲を大切にした学級活動や生徒会活動、学校行事、総合的な学習の時間、部活動などを意図的、計画的に行うことで、生徒の自治意識を高める教育を推進する。

２　基本的な生活習慣の定着と規範意識の醸成を図る。

▶「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している」→（生徒）肯定的評価…90%

▶「私は、先生が指導した学校での過ごし方やルールについて理解できる」
→（生徒）肯定的評価…84%　＊前年比▲-1%

・学校のルールや指導方法などは、「ダメだからダメ」ではなく「なぜダメなのか理解して行動すること」が大切である。したがって既述した二つの質問の肯定的評価の差が縮まることが理想である。指導のブレがないよう教職員で共通理解を図りつつ、生徒たちが自らの学校生活を省みたり考えたりできるような心に響く指導を進めていく。

３　系統的、計画的なキャリア教育を推進する。

▶「将来の生き方や進路について考えさせられる授業がある」
→（生徒）　肯定的評価 72%（前年比▲-19%）
（保護者）保護者肯定的評価 61%（前年比▲-3%）、分からない率 24%

・世田谷区の重点施策の「キャリア教育の推進」がなかなか定着しない。進路学習部が中心となって、各学年で行う活動の内容や方法等を学校全体で共有し、３年間を見通した、系統的、計画的なキャリア教育を推進していくことが課題である。また、キャリア教育の進捗状況を丁寧に保護者に伝えていくことで、キャリア教育に対する理解を得ていくことが必要である。

▶「私はキャリア・パスポートに書いた目標について考えて行動している」
→（生徒）肯定的評価 69%（昨年度とほぼ変わらず）

・キャリア・パスポートの実施の意図や目的を教職員で今一度確認し合った上で、もっと丁寧に生徒たちに伝えていくことが必要である。

３　自ら学ぶ力、探究的な「学び」の推進

１　探究的な学び・言語活動を基盤とした対話的な学びを推進する。

- 「先生は、課題について、自分で考えたり、友達と話したりする時間を授業の中で取っている。　　→（生徒）肯定的評価 94%（前年比▲-1%）
- 「授業では、考えたことを話し合ったり発表したりする機会がある」
  →（生徒）肯定的評価 95%（前年比増減なし）

・グループ学習や、ＩＣＴ（ロイロノート）などを活用して個人の意見をクラス全体で共有し話し合う活動など、各教科で工夫しながら進めてきた。探究的な学びを推進するためにも、言語活動を基盤とした対話的な学びを今後も積極的に取り入れていく。

２　ＩＣＴを活用した授業を推進する。

- 「先生は、映像やタブレットなどのＩＣＴを活用し、わかりやすい授業をしている」
  →（生徒）　肯定的評価…86%（前年比▲-4%）

・授業タブレット端末のアプリ『ロイロノート』で意見や考察した結果を瞬時にクラスや学年で共有したり、AI 型学習アプリ『Qubena』を使って学習を進めたり、様々な教科でＩＣＴ機器を活用した授業を展開している。今後も、より学習効果が期待される授業づくりに向けて、タブレット端末やデジタル教科書等ＩＣＴ機器を効果的に活用するための教材研究や準備を進めていく。

３　様々な分野から講師を招き体験活動を行うことで、多文化共生社会に生きる力を身に付けさせる

・今年度は、各学年・教科で必要に応じて外部講師を招聘しての授業を積極的に実施した。実施後の生徒の様子から「本物を見て、体験して学ぶ」ことの大切さを感じとることができる。来年度も、計画的に外部講師を活用した授業を実施していく。

４　信頼と誇りの持てる教育の推進

１　地域の教育資源を活用した「職場体験」や「ボランティア活動」などの体験活動を充実させ、「地域が参画する学校づくりを推進する。

- 「本校は、地域の活動などに協力的である」→（保護者）肯定的評価…55%
  （昨年度比▲-1%）
- 「地域の人や施設を教育活動に活かしている」→（地域）肯定的評価…72%（昨年度比▲-9%）

・職場体験学習の受け入れ先事業所との連携（２学年）、地域行事への参加（吹奏楽部）、老人ホームボランティア、全校朝礼での同窓会会長の講話、夏季休業中のラジオ体操や青少年委員会主催の凧揚げ大会実施に係る校庭開放、日大・日体大など大学からのボランティア受け入れなど、今後も積極的に地域や近隣大学の人材を活用し、地域活動の機会をつくっていきたい。

２　各種たよりやホームページなどの広報活動を充実させる。

- 「本校はホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している」
  →（保護者）肯定的評価…89%（昨年度比△＋1%）

・ホームページに加えて、『すぐーる』により、学校からの紙ベースの文書や提供したい情報を保護者に積極的に直接配信している。必要な情報をタイムリーに発信することができた。今後も学校からの適切でスピード感ある情報発信を行っていく。

３　学校事故の未然防止等安全安心な学校づくりを推進する。

- 「本校は避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている」
  →（保護者）肯定的評価…83％（前年比▲-9％）
- 「自然災害の対応を子どもや保護者に提供している」
  →（保護者）肯定的評価…71％（前年比▲-14％）

・学校が安全で安心な場所であるということ、不測の事態が起こった時に迅速かつ臨機応変な対応をとり生徒の安全を確保することは、教育活動を進めていく上での基盤となる。

今年度も、避難訓練やセーフティ教室、日々の教育活動の中で生徒たちに安全に関する指導を進めてきたが、保護者からの肯定的評価が大幅に後退したことを重く受け止めたい。

『令和６年能登半島地震』の発生により、保護者や生徒の防災・安全指導に関する意識も高まっている。自然災害が発生したときの災害対応マニュアルなどをホームページに記載し、広く周知するなど、より分かりやすく保護者に伝えていく。同時に、本校の安全指導方針を分かりやすく提示し、必要とすべき情報は正確かつ迅速に発信していく。